

最上小国川清流未来ニュース

令和元年 8月30日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第16号

特集号 高校生の鮎釣り全国大会！



第2回最上小国川 鮎釣り甲子園大会



7月27日（土）、舟形町の最上小国川一の関大橋付近を会場に、第2回最上小国川鮎釣り甲子園大会が開催されました。競技時間（3時間）内に鮎を何匹釣り上げられるかを競い合うもので、経験者は1人で参加、未経験者は2人1組となり地元の釣り名人がサポートを行いました。最上地域のほか、宮城県からの参加もあり、高校生52名が熱戦を繰り広げました。

開会式には、山形県最上総合支庁の須藤 勇司支庁長、最上町の高橋 重美町長、舟形町の森 富広町長、小国川漁業協同組合の高橋 光明代表理事組合長、伊藤 重成山形県議会議員から出席いただきました。参加者を代表して新庄北高等学校1年生の八鍬 颯太さん（舟形町）が選手宣誓を行い、「最上小国川が育んだ自然に感謝し、鮎を1匹でも多く釣り上げます」と力強く述べました。



新庄市のフィッシングチャッカ屋 井上 英治様から競技方法や鮎釣りの手法について説明をしていただいた後、各々釣り場へ向かい号令の合図とともに友釣りを開始しました。競技終了後、検量を行い入賞者が決定しました。



山形県 新庄北高等学校
早坂 錬さん・泉谷琉成さん 17匹



山形県 新庄南高等学校
清水 大聖さん・中川 雄斗さん 16匹



山形県 新庄神室産業高等学校真室川校
荒木 拓樹さん 16匹

※同数によりじゃんけん決着



入賞者には最上、舟形両町の特産品である米やマッシュルームの詰め合わせ、縄文の女神のクリスタルトロフィー、クーラーボックス等の副賞を贈呈しました。昼食は最上小国川流域の味覚として鮎の塩焼き、山形名物芋煮や舟形町産のトマト、きゅうり、スイカなどを参加者全員でいただきました。その後、帽子やTシャツなど釣り具メーカーからの協賛の品を景品に、お楽しみ抽選会を行いました。（協賛いただいた方々：フィッシングチャッカ屋様、株式会社オーナーばり様、株式会社がまかつ様、株式会社グローブライド様、株式会社シマノ様）

参加した高校生からは、「伝統的な釣り手法を経験できた」、「いつも食べている鮎がこんな大変な方法で釣られていることは知らなかった」、「生命をいただくことの大切さ、尊さを学んだ」、「地元について新しい発見があり、とても興味を持てる体験ができた」といった声がありました。

この大会は、最上小国川清流未来振興機構の構成員である舟形町、最上町、小国川漁業協同組合、県が実行委員会をつくり開催しました。大会を通じ、高校生は釣り指導を行った大人たちと鮎釣りや地元のことについて語り合い、最上小国川の豊かな自然の魅力と鮎釣り文化を体験してもらうことで、ふるさとへの愛着を深めてもらうことができました。



～第4回 最上小国川 写真コンテスト開催中～

「未来に伝えたい、私たちの最上小国川」をテーマに写真コンテストを開催しています。

最上小国川の魅力（最上小国川の風景、体験や思い出など）を撮影した作品を募集しています。

【応募締切】

令和元年 11月30日（土）まで
（当日消印有効）

【入賞】

賞金のほか、「最上小国川流域の特産物」をプレゼント

※詳しくは、右の
QRコードから
ご確認ください。



【お問い合わせ先】

最上小国川清流未来振興機構（山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：0233-29-1240

※ 最上小国川清流未来振興機構のHPでも、流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧ください。（<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>）